

京都市立病院紀要投稿規定

1. 本誌は京都市立病院の機関誌として年1回発行する。
2. 原則として投稿者は本院の職員とする。但し当院職員以外の者であっても編集委員の承認を得た場合はこの限りではない。
3. 本誌の内容は主に医学およびこれに関連ある内容の論文を中心とし、その他の学術活動も広く記録する。なお論文は他誌に未発表のものに限る。内容は、総説・研究・症例報告と、短報・院内合同研究発表会などの記録・海外研修報告・CPC報告・院内研修会報告・研究業績集(原著・学会報告等)を中心とする。近畿病院図書室協議会共同リポジトリ(KINTORE)への登録対象は総説・研究・症例報告のみ(これらは医学中央雑誌での検索対象となる)とし、その他はKINTORE登録対象外(医学中央雑誌での検索対象外)となるため注意すること。院内合同研究発表会での発表内容でKINTOREへの登録を希望する場合は、総説・研究・症例報告として投稿すること。
4. 掲載論文の採否は編集委員が査読したうえで編集委員会で決定する。また、審査の結果、修正、削除、加筆を求められた場合は、査読者ならびに編集委員会の意見に従い対応すること。内容等については著者が全責任を負うものとする。
5. 原稿執筆の要領は次のとおりとする。

1) 体裁：

原稿はWordファイル(A4版サイズ)を用いて作成し、デジタルデータをメールなどで提出すること。原稿の並べ方は、和文表題・所属・著者・要旨・キーワード、本文、引用文献、英文タイトル・著者・所属・abstract・key words、図表、図表の説明とする。本文と抄録の文字数、図表数等については以下の表を原則とする。論文は原則として邦文、横書き、平カナ、当用漢字、現代カナ使いを使用し、句読点はコンマ「,」ピリオド「.」とする。日本語で表せる用語はできるだけ日本語で表し、外国語は避ける。ただし外国人名、地名、酵素名、生化学的な物質名、薬品名は、原則として原語またはカタカナを用いる。また、薬品名は一般名で記載すること。度量衡はC.G.S単位とし、km, mm, l, dl, kg, g, mg, mEq/l, mg/dlなどを用い、数字は算用数字を用いる。

2) 表紙：

表題・所属・著者の順に記載する。病院名も必ず所属診療科の前に記載する。当院退職後の共著者が現在所属している機関名は、その共著者名の上段に独立して記入するか、または、その共著者名の右肩に※印をつけて表題原稿の下部に同じ※印を付け、所属を記入する。なお、タイトルには原則として略語を使用しない。

3) 和文要旨：

総説・研究・症例報告では、200字以内の和文抄録をつけ、そのあとに5個以内の和文のキーワードつける。

4) 本文：

本文は25行×32文字で印字する。見出し語は総説・研究では「緒言」「目的・方法」「結果」「考察」「結語」、症例報告では「緒言」「症例」「考察」「結語」等と明確に記入する。見出し語には番号をつけない。短報・院内合同研究発表会などの記録・海外研修報告では見出し語は規定しないが、総説・研究・症例報告としての掲載を希望する場合はその体裁に従うこと。

例：(誤) I 緒言... III 結果

省略語を用いる場合、要旨・本文ともに、それぞれ

れ初出の際に日本語名を書き、続いて()に英語正式名：省略名を示す。

例：サイトメガロウイルス(cytomegalovirus：CMV)

児童相談所(児相)

臨床試験の報告、未承認薬または適応外の使用例あるいは特殊な検査、治療例の報告は、臨床研究倫理審査委員会の承認および患者に対するinformed consentを得たものであること。またその旨を論文に明記すること。

5) 文献：

出現順に肩番号(上付き、片括弧付き)を付し、本文の終わりにまとめて記載する。外国誌はList of Journals indexed for Medlineに準じ、邦文誌は公式の略称または医学中央雑誌収載目録を使用する。著者名は3名までは全員を記載する。4名以上の著者の場合は3名までを記載し、「他」あるいは外国語文献の場合は「et al.」とすること。文献の表題は、副題を含めてフルタイトルとする。書き方は以下の形式に従う。

雑誌記事の場合：著者氏名：題名、副題、誌名 発行年；巻：ページ。

Levy MN, Imperial ES, Zieske H Jr: Collateral blood flow to the myocardium as determined by the clearance of rubidium-86 chloride. *Circ Res* 1961; 9: 1035-1045.

安部英, 前川正：凝固亢進状態の成因とその対策。臨血 1980；21：701-758.

図書の場合：著者氏名：書名、出版地、出版社、出版年、ページ(ppをつける)。

Winer BJ: *Statistical Principles in Experimental Design*. New York, McGraw-Hill, 1971, pp201-204, 210-218.

日野原重明 編：プライマリ・ケア医学－包括医療実践のために。東京、医学書院、1981, p46-55.

図書の一部の場合：著者氏名：題名。(in)書名、編著者、出版地、出版社、出版年、ページ。

Fredrikson DS, Gotto AM: Familial lipoprotein disease deficiency. in *The Metabolic Basis of Inherited Disease*, Stanbury JB ed, New York, Mc-Graw-Hill, 1972, ch 26.

伊藤正男：ニューロンの働き。脳の生理学、時実利彦 編、東京、朝倉書店、1966, p92-114.

学会抄録の場合：著者氏名：抄録題名(抄録)、学会名、開催地、開催年、誌名 発行年；巻：ページ。

富沢忠弘：本態性高血圧の長期予後、特に高血圧性臓器侵襲度と予後の関係について(抄録)。第18回日本医学会、東京、1971、日本医学会誌 1972, p1801-1802.

降期力男：甲状腺癌の外科的治療指針(抄録)。第74回日本外科学会総会、東京、1974。日外会誌 1974；75：652-655.

加納 正：成人型原発性免疫不全症に関する研究。厚生省特定疾患調査研究班(班長 小林 登)昭和54年研究報告書、1980, p7.

オンライン資料の場合：著者名(編者名)：サイト名 [internet]。URL [最終アクセス日]。

小林祥泰：病院経営の問題点。日本内科学会内科臨床研修指導マニュアル [internet]。http://www.naika.or.jp/manual/52.html [accessed

2002.07.23].

野上耕二郎：EBM（根拠に基づいた医療）；わが国における EBM の現状と今後の展望. 東海ヘルスケア・クオリティ研究会講演 平成 11 年 10 月 30 日 [internet]. <http://www.med.nagoya-u.ac.jp/medinfo/tokaihcq/nogami~ppt/index.htm> [accessed 2002.07.23].

日本生理学会ホームページ [internet]. <http://www.soc.nii.ac.jp/psj/index.html> [accessed 2002.07.23].

6) 図, 表, 写真:

図は、図と文字のバランスに留意して作成し、なるべく著者の原図を印刷に使用できるようにする。文中に図表、写真の挿入位置を指定する

7) 図表の説明:

表は上部に、図は下部に、それぞれ題名を記入すること。図表の説明文 (Legend) は、本文が日本語の場合は日本語とする。ただし、図表のすべてがある論文の中の引用の場合は、引用図書あるいは雑誌名の書誌を明記するとともに原文のままよい。

8) 英文表題・著者・所属・abstract・キーワード:

英文表題・著者・所属の順に記載する。病院名も必ず所属診療科の後に記載する。総説・研究・症例報告では、100 語以内の英文抄録をつけ、英文抄録のあとに英語の key words 5 個以内をつけること。Key word については単語、熟語の最初の word の頭文字を大文字とする。

例: Department of Respiratory Disease, Kyoto City Hospital Division of N2 Ward, Department of Nursing, Kyoto City Hospital

	本文文字数	和文抄録	英文抄録	文献	図表数	キーワード
総説	6000 字	200 字	100 語	制限なし	10 点以内	5 個以内
研究	6000 字	200 字	100 語	制限なし	10 点以内	5 個以内
症例報告	5000 字	200 字	100 語	20 編以内	7 点以内	5 個以内
短報	3000 字	不要	不要	10 編以内	4 点以内	不要
院内合同研究発表会などの記録	5000 字	不要	不要	不要	10 点以内	不要
海外研修報告	5000 字	不要	不要	不要	10 点以内	不要

- 6. 校正は著者が行い、誤植の訂正程度にとどめる。版の組みかえは行なわない。
- 7. 掲載料は無料とする。
- 8. 掲載原稿は原則として返還しない。返還を希望するものはあらかじめ編集委員に申し出ること。
- 9. 論文提出期日、編集要旨については編集委員会より別に定め掲示する。メ切りは厳守されたい。
- 10. 倫理規定

医学研究のための研究・症例報告は、医学・医療の進歩に貢献するための重要な役割を果たしている。しかし、患者の生命、健康、プライバシーおよび尊厳をまもることは、医療者・研究者側の責務である。本誌に掲載する論文等において、特定の患者の疾患や治療内容に関する情報には十分な配慮をしなければならない。患者のプライバシー保護のため、以下の規定を定める。

- 1) 患者個人の特定が可能な氏名、ID、イニシャルまたは「呼び名」などの愛称は記載しない。
- 2) 患者の住所は記載しない。ただし、疾患の発生場所が病態等に関与する場合は区域までは記載することを可とする（京都府、京都市など）。
- 3) 治療経過の日付は、臨床経過を知る上で必要となることが多いので、個人が特定できないと判断される場合はよい。
- 4) 他の情報と診療科名を照合することにより患者が特定され得る場合、診療科名は記載しない。
- 5) 既に他施設において診断・治療を受けている場合は、その施設名ならびに所在地を記載しない。ただし、救急医療などで搬送元の記載が不可欠の場合は、この限りではない。
- 6) 人物写真の使用が不可欠な場合、目の部分を隠すなど対象者の身元が特定できないように配慮する。目疾患の場合は、顔全体がわからないように考慮す

る。

7) 症例を特定できる生検、手術摘出標本、剖検、画像情報などに含まれる番号などは削除する。

以上の事項を配慮してもなお個人が特定化される場合には、発表に関する同意を患者（あるいは家族）から得るか、当院の倫理委員会に検討を要請し承認を得ることとする。同意を得た場合は、その旨掲載記事に示されていることとする。すべての医学研究のための基本原則は、世界医師会総会において承認されたヘルシンキ宣言に基づいており、「WMA 医の倫理マニュアル 日本語版/日本医師会 編」を参考にされたい。

11. 著作権

- 1) 本誌掲載された論文の著作権は京都市立病院に帰属する（著作権法 第 27 条翻訳権・翻案権、第 28 条二次的著作物の利用に関する原著作者の権利）。なお本誌に掲載された論文等の著作物は、原則として電子化（PDF 形式等）し、病院ホームページ・近畿病院図書室協議会共同リポジトリ (KINTORE) を通じてコンピュータネットワーク上に公開する。
- 2) 投稿する前に考慮すべき点として、重複または二重掲載のないこと（既に掲載されたことのある論文と本質的にオーバーラップしない）。学術集会において発表された報告など会議録もしくはそれに類似する形式の掲載以外正式に出版されていない場合は、その投稿を妨げるものではない。
- 3) 投稿する論文に載せる図表（写真も含む）が既に公表されたものである場合、オリジナルの出典を明示し、必要に応じ、著作権所有者の書面による承諾を得ること。万一、執筆内容が第三者の著作権を侵害するなどの指摘がなされ、第三者に損害を与えた場合は執筆者がその責を負う。

作成 (改訂) : 2024.5

編集委員会

委員長	田村真一				
委員	中谷嘉文	奥沢康太郎	森友彦		
	富田真弓	谷利康樹	中島瑠菜		
	市田育子	佐々木亜由美	内藤舞		
	林田愛海	小林慎司	谷口美樹		
	岡村寿子				

編集後記

年があけ2025年となりました。現在はソーシャル・ネット・ワーキングサービス、SNSの発達により、誰でも情報発信がしやすい環境となっています。昨年、記憶に新しいところでは、医療関係者が不適切な投稿をして「炎上」したり、複数の都道府知事選挙にも影響を及ぼしたことが話題になりました。SNSは誰でも情報発信が行えますが発信前のチェック機構がなく、その情報の真偽がしばしば問題となります。一方で、いわゆるオールドメディアである新聞やテレビなどでも「知っているが発信しない」などの方法で情報の操作も可能であり、同じニュースであっても会社や記者の視点が異なれば全く別の報道がされています。医学論文に目を向けても、データねつ造や盗用などで掲載取り消しとなることも起こっています。どのようなメディアでも発信する情報には充分気をつける必要がありますが、与えられる情報を鵜呑みにせず立ち止まって考えなければいけません。

本誌も世界に向けて発信できる立派なツールの一つです。当然、内容への責任は伴いますが、どのような小さなことであっても自分たちの経験を院外に向けて発信することで、必ず誰かの役に立っています。医師の専門医取得やその更新にも論文発表が義務づけられることが多くなってきています。その一方で英文誌を中心に症例報告の掲載が困難になってきています。本誌は病院紀要ですが、査読制度を有しています。医師のみならず、各専門職の研究や症例報告の場として活用してください。

さて、本号では総説、症例報告と、院内の合同研究発表会の内容、第36回と37回の地域医療フォーラム講演内容が掲載されています。本誌の内容が、日々の診療に少しでも活用されることを期待しています。最後に、本誌の査読・構成・編集にご協力頂いた皆様に、この場を借りて深謝致します。

紀要編集委員長 田村 真一（小児科部長）

京都市立病院紀要 第44巻（通巻62号）2024年（令和6年）

編集者 京都市立病院紀要編集委員会
発行者 黒田 啓 史
